

本文草稿

| | |
|------|--|
| タイトル | 3-5 望ましい画像データの取扱法や活用法（画像処理ソフトウェアを含めて）はなにか。 |
| 作成者 | 中山英二 |
| 作成日 | 2006/9/10 |

I. はじめに

歯科インプラントの術前に CT を行なった場合、その画像データを保管・活用する推奨される方法はなにかを文献により考察した。そしてそのエビデンスレベルを明らかにした。

II. 方法

1. PubMed, EBMR での検索式

PubMed では 1991-2006 の文献について、“implant”and “dental” and “data”で検索し、191 編の論文がヒットした。EBMR では同様の検索式で 1996-2006 の文献について検索し、6 編がヒットした。医中誌では 1996-2006 の文献について、“インプラント”and “データ” and “歯学”で検索し、49 編の論文がヒットした。それらの文献についてタイトルと抄録より一次振り分けを行い、関連する内容が掲載されている可能性があるかと判断した論文の full text を吟味した。

2. 結果

現状では推奨される画像データの保管・活用法として十分なエビデンスに基づいたものは存在しない。

報告者の臨床経験から試験的に行われた経験からの個人的意見として、以下の報告がある。（すべての論文の evidence level-GLGL:VI、 evidence level-AHCPR:IV、推奨度： C、検査の有有用度の階層分類： E1）

A. MDCT 検査により収集された骨モードの CT データを閾値による二値化ソフトを使用し、通常は 40MB 程度の画像データを HP-GL 形式に加工すると 2-3MB になり、さらに LHA 形式に圧縮すると電子メールで遠隔地にデータを転送することが可能である。¹⁾

B. 収集された CT データをサーバーに保管しはインターネットを介して 300KB 程度の 3D 表示用の圧縮データを download し利用することが可能である。²⁾

以上の報告から CT データを実用的に保管・二次利用できる可能性はあるが、実情では詳細な研究報告がなく、未解決な分野である。

III. まとめとお勧め

現状では推奨される画像データの保管・活用法として十分なエビデンスに基づいたものは存在しないといえる。